

ごみ拾いはスポーツだ

東京都内でプランニング会社を経営する男性二人が発案した「スポーツGOMI（ごみ）拾い」が、広がりをみせている。チームが協力して拾ったごみの重さなどを競う内容で、ごみ拾いに遊び感覚を採り入れた試み。都内を中心に競技会を重ね、今月下旬には愛知県で参加者千人規模の初の大規模な大会を開く。

都内の社長発案 今月大会



雨の中、第1回大会でごみを拾った参加チーム。昨年5月、東京・渋谷で

チーム対抗「夢は東京五輪の競技」 重量など競う

二人は馬見塚健一（さしみづまけんいち）さん（40）と渋谷区と服部進（ふくべすすむ）さん（40）と港区。企画と運営のノウハウを生かし、学生らの協力を得て準備を進め、当日は渋谷区役所を会場に、都内の大学などを中心に半径五キロを会場として独立した。アイディアを出したの



「将来は五輪競技に」と話す服部進さん（左）と馬見塚健一さん（右）＝東京都千代田区で

中、合計百二十キロものごみが集まり、優勝したのは馬見塚さん。昨年三月、服部さんに声をかけた日本女子体育大チームには協賛企業からトロフィーなどが贈られた。競技時間は一時間一十分間半。「百ポンドにつき燃えるごみは十ポンド、拾いにくい吸い殻は百ポンドのように、総重量ではなく、ごみの内容も評価する」「チームには審査員が同行し、走るなど安全確保に反した動きをした場合は減点する」。ポリ袋に青色で世界地図をデザインした「公式GOMI袋」を用意、ファッション性も重視した。初めての大会は昨年

国立競技場で開催。過去四回の大会で参加人数は四百人を超えた。千人余の参加を見込む愛知県豊川市での第五回大会は今月二十三日。馬見塚さんは「初めは手探りだったが、いまは手応えを感じている」と意気込む。

普及を加速させるため、二人は「日本スポーツGOMI拾い連盟」を結成、特定非営利活動法人（NPO法人）の認可申請もした。

「二〇一六年に東京五輪が招致されたら公開競技にしたい」と服部さん。二人は東京発の「環境スポーツ」が世界に広がることを夢